

新しさへの挑戦。
— お客様のお役に立つ商品開発 —

bwdグループ

ポンド商事株式会社
http://www.bond-syoji.co.jp
本社 TEL 03(3293)7211 FAX 03(3293)7217
九州営業所 大阪営業所

銘石らしく。美しく。

最高級大島石

蒼牙

平岡白井石材有限公司 0898-47-3441

おしえて **おま** の話

石造美術オタクのひとこと

⑧ 安養寺宝塔



高橋晋也 / 庵治産地の石材加工メーカーである(有)翼石材企画室に籍置き、平成21年より、究極のこだわり製品として『世伝石塔』シリーズを開発、総合プロデューサーとして庵治・牟礼産地の優れた加工技術を持つ『庵治石工業』によって制作している。中世の石造物をこよなく愛し、平成30年4月からは、中世の石塔を中心に勉強をする会、『翼塾』を開講。



「安養寺宝塔」の全景

棟とは、屋根の隅降棟と露盤ですが、もともと石造宝塔は木造建築や金銅製(金属製)の宝塔を模して作られたものです。隅降棟とは、屋

では簡単に紹介をしていきたいと思ひます。石塔は京都市東山区円山町安養寺の境外仏堂である弁財天を祀る吉水弁天堂の後方に立っています。吉水と呼ばれたこの地は天台の高僧慈鎮和尚(慈円)の隠棲の旧地とされ、慈鎮和尚宝塔と呼ばれています。

現高約244cm(塔身以上)、花崗岩製のどっしりとした巨塔です。写真を見てお分かりかと思ひます。

正面には左右に開いた扉

型と、その内に釈迦・多宝二仏並座の像容をあらわしています。

屋根は幅が約112cm、軒が厚く、反りは緩やかです。四隅には低い隅降棟が表現され、上端の露盤も低く作り出されています。

相輪は、通常の九輪と違い非常に珍しい五輪(五重の輪)となります。と、ここまでは、前回と同様の石造物関係の書籍や辞典などに載っている

こんにちは、(有)翼石材・企画室の高橋です。前回引き続き、私の大好きな石造物を紹介させていただこうと思ひます。今回も、どれにしようか迷ったのですが、日本石材工業新聞(令和2年3月25日発行)の付録「お墓は美しい。」シリーズで紹介されていた『安養寺宝塔』(重要文化財・鎌倉時代中期)にしました!

まずは、宝塔の塔身は、平面が円形であることが特徴であり、安養寺宝塔の塔身は、首部と軸部からなります。首部とは、人の首のような形状をした軸部上端から立ち上がった部分です。そして軸部の扉型と二仏並座は、宝塔の信仰上の教義である『法華経』見宝塔品第十一の場面、釈迦如来が靈鷲山で法華経を説法している、地中から宝塔が湧出し、塔中より多宝如来が釈迦の説法をほめたたえ、塔中に釈迦を招いて半座をわち、多

るような説明でしたので、ここからもう少し形式や意匠について詳しく説明したいと思ひます。

○

まず、宝塔の塔身は、平面が円形であることが特徴であり、安養寺宝塔の塔身は、首部と軸部からなります。首部とは、人の首のような形状をした軸部上端から立ち上がった部分です。そして軸部の扉型と二仏並座は、宝塔の信仰上の教義である『法華経』見宝塔品第十一の場面、釈迦如来が靈鷲山で法華経を説法している、地中から宝塔が湧出し、塔中より多宝如来が釈迦の説法をほめたたえ、塔中に釈迦を招いて半座をわち、多

根の四方の角に配置されている瓦葺の棟の名称です。露盤は、相輪の最下部にある四角い箱型のことと、木造建築では一般に低平なものが古いとされています。

そして相輪は、五輪が三輪目と二輪目の間で折れてはいますが、伏鉢・請花・五輪・請花・宝珠と全て揃っているものとされます(あくまで私思われまふ)。あくまで個人の見解です。五輪のことについては、石造物関係の書籍や辞典などでは触れておらず、通常の相輪(九輪部分)が欠損しているものだとお思ひま

しかし何度か観察しているうちに、折れている箇所がほぼ合致していることに気が付き、五輪であることが分かりました。「いやいや、相輪は九輪だろう!」と思つた方もいらつしやるかと思ひますが、実は、五輪や七輪の相輪を有する石造物や木造建築、金銅製の塔が、ごく僅かではありますが存在しています。

相輪はインドのストゥーパ(仏塔)が原型で、それが中国に伝わり日本へと入ってきたものです。私たちがよく目にする九輪は、日本で定型化したものだとお思ひま

魅力の1つ目は、なんととっても素朴。私が石造物を探索し始めた頃は、前回ご紹介した比叡神社宝篋印塔のような、意匠の多い見どころ満載な石造物が好みでした。逆に安養寺宝塔のような素朴な石塔は、どこを見れば良いのか?と、思つていました。

しかし、いつからかおらかさや温かみ、うつとりするような優しさが伝わってきて、見応え抜群だなあとお思ひようになりました。塔身は曲線だけでお腹いっぱい、屋根は唯一の意匠ですら控えめな上、屋だるみ(屋根の反り)の緩さで悩殺間違ひなしです。

さらに、これは中世の石造物全体に言えることですが、特に素朴な石塔は石材という硬い素材がとて柔らかく感じられます(石造美術オタクの主観です)。ぜひ、そのあたりを観察してみてください。気が付けばまだれが出てくるかもしれませ

2つ目は大きさです。もし完存していればというところで、私の独断で想定してみると全高約300cm近くはあったのではないかとお思ひます。めちゃくちゃでかいです。ついでに基礎幅も想定してみると、やはり120

以上、『安養寺宝塔』はどこを取っても大変すばらしい塔です。何度見ても見飽きません。ぜひ石材人として、一度は訪れてみてください(一度と言わず二度、三度)。また、近くには八坂神社石灯笼や知恩院五輪塔、NHK番組「行く年々」の除夜の鐘で有名な「知恩院の大鐘」などがあり、見どころ満載です。ぜひ、お散歩がてら探索してみてください。

○

そして最後に石造美術を鑑賞するにあたって、私なりのちよつとしたマナーやモラルもお話させていただきます。お話を聞いていただこうと思ひます。私が以前、あるお寺の境内にある石造物の見学をお願いすると、断られたことがありました。その理由は、以前の見学者が曲尺などの金属製の定規で石造物を傷つけたということでした。

石造物は信仰の対象であり、それ以外の何ものでもありません。また、石造物の多くは、管理者のご厚意で見学しやすい環境に整備されています。見学される際は、ぜひ、草抜きやお掃除など、ちよつとしたお手伝いをいただければと思ひます。さらに、実測など直接石造物に触れるような場合は、事前に管理者へ連絡して了解をいただき、細心の注意を払って作業をされますよう心がけてください。

今、掲載する写真を選んでいきます。でも酒の肴にしか見えません。今日の晩酌が楽しみです!



扉型と二仏並座



五輪の相輪



屋根の反りも非常に緩やかです